

作成日	2025 年 6 月 2 3 日
研究科名	心理学専攻

自己評価：S・**A**・B・C

**評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み**

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

**参照資料**

- ・令和6年度自己点検評価シート
- ・令和6年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画およびR7学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等

**【現状分析】**

(ア) シラバスにおける授業外学習の必要時間の記載に関する問題については、大学院の授業の性質上、要求される理解の水準や実施すべき研究活動などが明示される場合がほとんどであることを考えると、時間数を記載することは適切ではないという結論に至った。実際に、大学院生アンケートでも、心理学専攻の授業外学習は最低でも11時間以上、大多数は16時間以上（80%、4名）に達しており、シラバスへの記載がなくても十分な授業外学習時間が確保されていることが確認されている。一方で、大学院生アンケートからは、シラバスの情報が不十分と感じる学生がいることが窺われ、その感覚が複数の学生が共有するものか、その内容はどのようなものか、原因は何なのかなどを把握し、必要に応じて対処する必要があるようである。

成績評価の教員間のばらつきについては、大学院生アンケートからは問題があるようには見受けられないが、継続して議論していく。

大学院生アンケートに見られる、カリキュラムがタイトであることに起因すると考えられる不満（一部の能力が身につけていないように感じている、など）に関しては、資格取得のための科目や実習などが多いこと、心理学が高度に専門化した学問になっているため、獲得しなければならぬ知識や技術が多いことなどから、やむを得ない側面もあると思われるが、大学院のあり方から議論が必要かもしれない。

(イ) 大学院生への学習成果の評価やフィードバックは、日常、指導教員からきめ細かく行われているほか、修士論文の中間報告会や審査において複数の教員から行われており、適切、かつ十分であると考えられる。これは、資格取得や学会発表などの場で受ける評価やフィードバックに表れている。

**【成果】**

心理学専攻臨床心理学領域の修了生の国家資格公認心理師合格率は、2024年度卒業生において

も 100% (3 名中 3 名合格) であった。

**【課題】**

特に大きな問題点はないと思われるが、日常的な点検と改善という観点から、特にシラバスの内容とアンケートに見られるいくつかの点（時間割の編成、教員からのフィードバックの適切性など）を中心に、学生の意見も聞きながら検討していく必要がある。

**【改善・発展方策】**

カリキュラムについては、専攻会議において随時チェックしているので、これを継続していく。学生からの意見聴取については、夏に予定している FD 検討会において行う予定である。さらにこれを受けて、カリキュラムや評価方法に関する検討会を、秋に予定している。